

# 令和 6 年度 市長記者会見 発言要旨

令和 7 年 1 月 6 日(月)開催分

< 開催時間 > 15:00~15:40

< 会 場 > 庁議室(市役所本館3階)

< 会見案件 > 令和7年 新年の抱負

< 出 席 者 > 市長、総務部長、市長公室長、市民税課長、スポーツ課長、都市計画課長

< 質疑応答 >

【記者】

今回の年末年始は、新幹線開業後初となりましたが、福井駅やまちのにぎわいをどのように見られましたか。

【市長】

来訪者は明らかに増加しています。新幹線の開業で福井の知名度が向上した影響もあると思います。これを一過性のものにせず、にぎわいを継続させることが重要だと考えています。

また、イベントなども大切で、リピーターを増やすことで、まちなかから郊外や海、一乗谷朝倉氏遺跡などへの観光誘客を進め、地域全体の発展につなげたいと考えています。

【記者】

来年度から小学校体育館への空調設備設置を進めると伺いましたが、優先的に整備する学校やスケジュール感について教えてください。

【市長】

具体的な整備対象校やスケジュールは、来年度の当初予算にて決定します。学校によって体育館の規模や状況が異なるため、周辺の人口規模や高齢化率などの要素を総合的に分析し、計画を進めていきます。

また、空調設備の方式についても議論が必要です。例えば、電気式にするのか、災害時の対応を考慮してガスなどの別の方式を採用するのかなどを検討します。これらの内容は議会で説明し、予算案とともに詳細を示します。

【記者】

整備期間はどのくらいを想定していますか。

【市長】

現在、市内の小学校体育館は約 50 棟あり、整備には高額な費用がかかります。国の制度なども活用しながら、一度に全校を整備することは困難ですが、なるべく整備期間を短くして進めたいと考えています。詳細なスケジュールについては当初予算案の中で明らかにする予定です。

【記者】

産業団地整備による企業誘致についてお伺いします。現在、交渉が始まっている案件など具体的な進捗はありますか。

【市長】

現在は用地交渉の段階です。20 ヘクタール規模の工業団地は、東京ドーム 5 個分ほどの広さになる大規模なものです。この用地交渉が進めば、具体的なタイムスケジュールを立て、企業誘致を進めたいと考えています。特に若い人たちが働ける先端的な企業や研究施設の誘致を目指しています。日常的に企業誘致活動は行っていますが、この団地が整備されれば、さらに積極的に展開したいと思います。

【記者】

関西万博を活用したインバウンド推進についてお伺いします。北陸新幹線の開業により関西からのアクセスが不便との声もありますが、それを補う誘客政策は考えていますか。

【市長】

大阪・関西万博には約 2,800 万人が訪れると予測され、そのうち約 350 万人が外国人です。この外国人観光客に焦点を当てる必要があると考えています。既に旅行関係者を招いて福井を PR するツアーを実施しており、今後も継続する予定です。また、万博事務局に福井市職員を派遣しており、情報収集を進めながら、福井の魅力を発信する方法を模索しています。外国のパビリオン関係者へのアプローチなども効果的ではないかと考えています。これらの具体的施策は予算案の中で示していく予定です。

【記者】

北陸新幹線開業から間もなく 1 年ですが、課題としてどのような点を感じていますか。また、今後取り組みたいことがあれば教えてください。

【市長】

課題としては宿泊施設の不足が挙げられます。台湾への誘客活動の際も、大手旅行会社から宿泊施設不足が指摘

されました。現在、新たなホテル建設の計画が進んでいますが、新幹線開業後の需要に応じて宿泊施設が整備されるのが一般的です。また、知名度の低さも課題です。福井は都道府県別の宿泊数で 46 位に位置し、改善の余地が大きいと感じています。去年は台湾をターゲットにした誘客活動を展開し、直行便のある小松空港を活用しました。さらに、欧米の旅行者向けに人気サイト「japan-guide.com」と協力し、福井の観光情報を発信しています。2月中旬からは、春の外国人来福につなげるための新たな動画を公開予定です。

宿泊数の低迷を伸びしろと捉え、重点的かつ効果的なプロモーションを行い、インバウンド需要を増やしていきたいと思っています。

【記者】

アリーナ計画について、今年度中の国への申請は難しい状況のようですが、2025 年中にどの段階まで進めることを目指されていますか。

【市長】

経済界が設計を進めているところで、それが完成しないと次の動きは難しいです。ただ、地元の方々に交通や騒音などの懸念について説明をする時間ができたと思っています。ブローウィンズのプレミアリーグ参加に向けたアリーナの完成リミットは令和 10 年秋ごろです。主体は経済界ですが、県とともに支援していきます。

【記者】

来年度の当初予算でアリーナ関連の具体的な計画はありますか。

【市長】

現時点では予算化の予定はありません。マンパワーで地元説明を進める状況です。次のステップに進む場合は補正予算で対応する形になると思います。

【記者】

現在行っている交通量調査などに続く次のステップは、当初予算には含まれていないということでしょうか。

【市長】

はい、その通りです。

【記者】

年収 103 万円の壁が 123 万円に引き上げられたことについて、税収への影響はどう見えていますか。

【市長】

試算では令和 6 年度の当初予算の市税収入が約 8000 万円 (0.6%) 減る見込みです。国の政策に基づくものですが、地方の負担が増えないように国に対応を求めています。

【記者】

産業団地の完成時期や場所、誘致する企業の規模やジャンルについて教えてください。

【市長】

現在、用地交渉を進めており、交渉がまとまればインフラ整備を含む造成作業を始める予定です。場所は国道 158 号線沿いの荒木新保町付近です。企業誘致については、規模やジャンルにこだわらず、特に若い人たちが夢を持てるような企業をターゲットにしたいと考えています。規模に関しては、大きな企業でも小さな企業でも関係なく、多くの企業にアプローチし、産業団地をできるだけ早く埋めることを目指しています。